

# 2月報(2024年) 萌 カトリック福山教会



福山教会活動テーマ：

「喜びをもっていのちをもたらす福音を社会に伝えよう」

〒720-0808 福山市昭和町 7-26

☎【084】923-0614 FAX【084】923-0615

e-mail : fuku-ch@ktd.biglobe.ne.jp

## 【第33回聖トマス小崎巡礼】

福山教会 伊藤 望



前日までの雨があがり 1月21日は青空も見える天候となった。聖トマス小崎の巡礼に広島教区の多くの教会から約100人が集まった。巡礼に出る前に10時から白浜司教様、フレデリック神父様、服部神父様司式のミサがあった。白浜司教様の説教。

「この世の様は過ぎ去ります。この世に囚われないようにとパウロは言っています。能登地震で大切な母や妻を失った人の『私が残されるのだったら一緒に死にたかった』という被災者の言葉。或いは星野富弘さんの『命が大切と生きているとき生きるのが辛かった。命より大切なものがあると分かった時生きるのが嬉しかった』と言っています。この命より大切なものは何ですか。地上の命より復活の命を伝えてくださったイエスの生き方、言葉を大切に歩みましょう。聖トマスは時の三原城主小早川氏の計らいで紙と筆を与えられ、そこに『現世は儚い。どんな悪事をも耐え、イエスの恵みを受ければ救われます』と手紙に書いています。命より大切な神様の愛、地上の命を通り越して永遠の命があることをはっきり示しました。今日の福音では異邦人の町ニネベに派遣されたヨナの言葉を聞いた人々は悔い改めました。そしてイエス様が4人の弟子に呼びかけられたように私たちも多くの人達に福音を伝えるように呼びかけられています。被災地の人々に向けても共に祈りましょう。」

三原教会の皆様が心尽くしのカレーを食べて、12時にルルドのマリア像の前で祈り一団は出発した。しばらく山陽線沿いに歩き、三原城・舟入櫓近くの聖トマス小崎像の前でロザリオの祈りを捧げる。途中休憩、ロザリオの祈りを入れながら JR 本郷駅までの道のり約13キロを巡礼した。



私はこの巡礼に初めて参加した。今まで行きたいと思いつつ仕事を抱えているとなかなか参加することが出来なかった。後に日本二十六聖人と呼ばれるようになった人たちはどんな思いをもって歩き、何を食べ、どんな服を着せられ、どの道を歩いたのだろうかといろいろ想像しながら歩いた。しかし彼らの思いは聖トマス小崎が代表で書き残しているようにただ単に殺される恐怖の絶望の心ではなく天国への道という希望の光を胸に歩いていたことに感動する。それこそ現代に生きるキリスト信者の心に強く訴えかけるものである。記録に 1993 年 1 月 17 日に聖トマス小崎の殉教碑が建立されたとあるが、私は約 30 年前のその除幕式に参列した。その時、結城神父（パチェコ神父）は「聖トマス小崎は今も私たちに手紙を書き続けている」と言われた。トマス小崎は復活の信仰をもって生きるように私たちに今も励ましている。



道中での白浜司教様との何気ない話や、フレデリック神父様との話、尾道教会の高橋さんとの話、「福音の光」のベトナム人シスターとの出会いなど他の機会では得難い時間を与えられた。これも巡礼に参加したからこそ与えられた恵みと神に感謝した。準備してくださった三原教会の皆様と心から感謝！同行してくださった皆様の多文化共同歩調（これぞ神の国への歩み）に賛美！

## 【大切なことを教えてくれた小さなエピソード】

松坂慈子

忘れもしません、1月6日主日の公現の18時のミサの後でした。珍しくローソクの火を消さねばとローソク消しを持って消そうとした時でした。向かって左の火を消して右手の火を消そうとした時でした。段で足を踏み外して転んでしまったのです。一瞬何が起きたか分かりませんでした。そして驚いて集まって来てくれた皆で探したのですが、どうしても見つかりませんでした。その日は消えたローソク消しのことを不思議に思いつつ帰りました。

その後、落ち着いて考えてみましたところ、どうしても祭壇の下の際間から入り込んだとしか考えられませんでしたので、次の日、考えに考えて懐中電灯と手鏡を持って行って探しました。でも一人で光を当てながら手鏡で探すことにはとても無理がありました。それでも30分探したでしょうか…。諦めて帰りました。

そして新しいものを求める手立てを色々考えました。優しい事務の方は「あれはもう古いしも

っと長くて火を付けたり消したり出来る物があるらしいからそれを買えば良いよ」と言ってくれました。が、どうしてももう一度探してみようと、次の日同じようにして探そうと出かけて行きました。

貼られている猫除けのナイロンのため、すぐ下に落ちているはず…と考えて…。でも手も入りませんでした。同じように試みても見つかりませんでした。



困り果てていましたところ、お祈りに来られた方が…思い切って声かけさせてもらいました。「お急ぎですか…手伝って頂きますかしらと。教会に行けてない年月が長かった私は存じ上げない方が多く、その方の事も分かりませんでした。思い切ってお願いしたところ無言ではありましたが喜んで手伝ってくださいました。」懐中電灯で、一生懸命手鏡で探す(落ちたであろう段の真下あたりを)私の手元を照らしてくださいました。ありました。

そして私が車にかき出せるような道具を取りに行っている間に、何と手を入れて取り出して下さっていたのです。感動してしまいました。

思いました。「もう年だし、自分で出来ないことが色々出てくるであろうけど、回りの優しい力をお借りして生きて行かねばと…一人で何もかもしようなどと思わないで…」と。

何でもない些細な出来事でしたが、とてもとても勉強になる出来事でした。一生懸命何かしようと努力する時、神さまは思い掛けない助けを下さる…ということ。そのことに感謝すると同時に、出来れば神さまに使って頂ける道具になりたいです…とも祈りつつ生きて行きたいと思えます。

## 【サント・ニーニョ】

村上 明



1月20日、福山教会でサント・ニーニョのお祝いがありました。サント・ニーニョとは「聖なる幼きイエス」という意味で、フィリピンでは16世紀以来、サント・ニーニョの御像が愛されてきました。

白浜司教様の司式により、ミサが始まりました。最初はどなたかわかりませんでした。まめに動かれている神父様がいらっしゃいました。後で猪口神父様であることがわかりました。猪口神父様にお会いできて良かったです。

ミサには、神聖な中にも楽しい雰囲気がありました。私は1月20日が誕生日だったので、二重の喜びに満たされ、感動しました。何より、フィリピンの信者の方々の信仰の深さに心を打たれました。彼らは確固たる信念を持っておられ、私も見習いたいと思いました。



ミサの後、昼食会がありました。フィリピンの人達は陽気で、英語が上手。私も何とかコミュニケーションを取ろうと、拙い英語で話しましたが、その心意気は伝わったと思います。

今回、サント・ニーニョのお祝いに初めて参加したことは異文化理解の第一歩になりました。日曜日のミサでは、なかなか話せなくても、今日みたいな日には話せます。これからフィリピンの信者の方々と交流していきたいと思いました。

教会は大きな家族であり、皆で協力し合って、福山教会を発展させていくことが大事ではないでしょうか。



## 【ブラザー阿部のみ言葉の分かち合い】～コヘレトの言葉 11 章～



『塵は元の大地に帰り、霊は与え主である神に帰る。』

今日も、コヘレトの言葉から考えてみました。

この何日間読まれた、コヘレトの言葉のまとめのようなみ言葉に出会いました。

「塵は元の大地に帰り、霊は与え主である神に帰る」本当にその通りです。わたしたちの生涯は、まさにこの通りです。わたしは塵であり、塵に帰るのです。

四旬節の始め、灰の水曜日にこの言葉を頂きます。わたしたちのすべては、神から頂いたもの、自分で得たものは何也没有ありません。たとえ、自分の力で得たように思うものも、すべては神の恵みに依るものです。

わたしたちの歩みは、いつも、そこに置かなければなりません。この心で生きることで、神に感謝の心が湧き、同じ被造物である回りの人を大切に思い、すべてを神の恵みと感ずることが出来るのです。

すべては否定されたような、コヘレトの言葉も、私たちが神のみむねを、悟るためなのです。わたしたちが神の前で謙遜に歩むため、本当の恵みに与るため、キリストに倣って天国への歩みを一歩ずつ歩むこと。それが、どれほど素晴らしい恵みの道なのかを教えてください。

私たちは、この恵みを頂くことで、もう怖れはありません。苦しみも悲しみも、そして喜びも、すべてを神さまに捧げて歩む事が出来るのです。この歩みを、毎日の生活で少しでも感ずることが出来ますように。

最後に、入祭唱の言葉を送ります。

「神の注がれる目は、神をおそれる人の上に、神の愛に希望を置く人の上に。」

私たちに、いつも希望の光と恵みを注いで下さる神に、感謝して歩みましょう。

【南相馬便り 60 2024年1月】 援助マリア修道会 南相馬修道院 北村令子



明けましておめでとうございます。

今年は辰年。十二支の中でもっとも縁起の良い干支だそうで、様々な願い事がかない、物事が良い方に導かれるとされています。世界各地の戦争・紛争が一日も早く終結し、平和が訪れますように！！干支の字は「辰」と書きますが、龍、竜といろいろな字がありますね。竜は「登竜門」や「竜王戦」など高みへとチャレンジする意味がありますね。「龍」は天に上るという架空の動物。霊獣ですね。

(小高のマンホールの図柄)



小高の町にあるマンホールには龍でなくて、大蛇が描かれています。大蛇は龍と違って、良いことにあまり使われません。聖書の最後の書である「ヨハネの黙示録」には、神の子が生まれたら食い尽くそうと待ち構える悪魔の化身として描かれます。(黙示録 12 章)

小高には日本三大摩崖仏のある大悲山という遺跡があり、そこには大蛇伝説があります。マンホールの蓋に描かれているのがそれです。主人公は大蛇ではなく、橋の上に小さく描かれている盲目の琵琶法師ですここでも大蛇は悪者です。人間に化けた大蛇が、目の不自由な琵琶法師に約束します。「小高郷に大雨を降らせて池にするが、そのことを殿様に黙っていたら、おまえの目を開け、殿様にしてやろう」と。琵琶法師は、その約束に心を惹かれますが、小高の住民たちのことを考え、自分一人の命で多くの人が救われるのなら捨ててもよいと、大蛇のたくらみを殿様に伝えて大蛇に殺されてしまいます。そのことを知った殿様は家来たちに大蛇退治を命じて、それを果たすという伝説です。







その大蛇の角が落ちたところを角部内（つのべうち）、耳がそぎ落とされたところを耳谷（みみがい）、琵琶法師が殺され琵琶が落ちたところを琵琶橋などの地名が小高に残っています。

小高工房の商品に、「大蛇もびっくり：小高ビーフカレー」、「大蛇のわるだくみ：粒マスタード」など大蛇伝説からとったネーミングの商品があります。

小高には震災前には 4 つの小学校がありました。どの小学校でも大悲山に遠足に行った経験があります。

震災後、その遠足の話を持ち掛けると、大蛇伝説が必ず話題に上って、話が弾んだとのことで、小高工房の廣畑さんはこの大蛇を商品の名につけたそうです。

先日、廣畑さんが「昨日はうれしいことがあったよ！」「酔っ払ったAさんが久っさしぶりにやって来て、『小高に帰ってきた時、一番に声をかけてくれたのが広畑さんだったよ。嬉しかったよ、心底嬉しかった！！』」と言ってくれた。廣畑さんは「しらふで言ってほしかったよなあ〜」と。「恥ずかしくって、酔っばらってでないと言えなかったんだよ。」とみんなで笑ったものです。

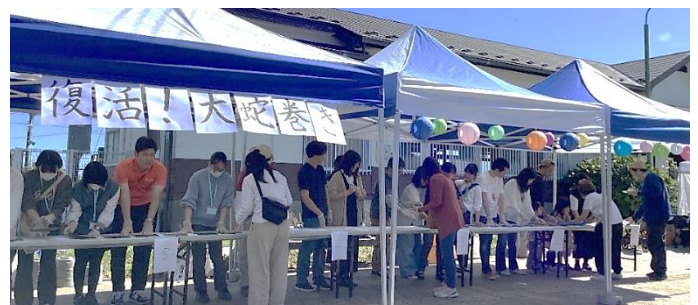
去年の小高秋祭りに駅前の広場で 4 年ぶりの『大蛇巻き』（10mほどの巻きずし）のイベントがありました。昭和 30 年代には 800m もの大蛇巻きでギネス記録に載ったそうです。

今回はそれほど大きくはなかったのですが、この イベントができることは、みんなの大きな喜びでした。海苔が足りなくなったり、具材が不足したり、簀の子が足りなかったり、いろいろなハプニングがありましたが、皆が大喜びした行事でした。

辰が大蛇に化けてしまい、新年早々の脱線でした。今年一年が思いやられますね！！

今日はここまでとします。

皆様お元気で、物価だけでなく、霊的にも上昇気龍に乗って良い年になりますように！！



## 2024 年度 掃除当番表

	第 1 週	第 2 週	第 3 週	第 4 週	第 5 週
1 月	6 日	13 日	21 日	28 日	
	第 6 ブロック 山手・松永・沼隈	第 7 ブロック 御幸・本庄・吉津	ベトナム	英語	
2 月	3 日	10 日	18 日	25 日	
	第 8 ブロック 府中・新市・神辺 修道院	第 1 ブロック 御船・御門	ベトナム	英語	
3 月	2 日	9 日	17 日	24 日	30 日
	第 2 ブロック 南部	第 3 ブロック 深津	ベトナム	英語	第 4 ブロック 春日・幕山
4 月	6 日	13 日	21 日	28 日	
	第 5 ブロック 手城・大門・引・伊	第 6 ブロック 山手・松永・沼隈	ベトナム	英語	
5 月	4 日	11 日	19 日	26 日	
	第 7 ブロック 御幸・本庄・吉津	第 8 ブロック 府中・新市・神辺 修道院	ベトナム	英語	
6 月	1 日	8 日	16 日	23 日	29 日
	第 1 ブロック 御船・御門	第 2 ブロック 南部	ベトナム	英語	第 3 ブロック 深津

## 【帰天のお知らせ】

マリア 山本弘子様 (87 歳)

謹んでお知らせします。どうぞ心を合わせてお祈りください。

## 【転入のお知らせ】

- ・アンナ 山岡悠海様 (引野地区)
- ・ガブリエル 濱崎一希様 (幕山地区)

## 【2月・3月の行事予定】

2月		3月	
3(土)	聖園幼稚園生活発表展	10(日)	四旬節黙想会
10(土)	福山市内巡礼	20(水)	聖ヨセフ
11(日)	ミカエルフェスタ・世界病者の日		星野倫淳助祭司祭叙階式
14(水)	灰の水曜日	24(日)	受難の主日
18(日)	四旬節第1主日	27(水)	聖香油ミサ
23(金)	召命学校	28(木)	聖木曜日(主の晩餐)
24(土)	幟町ラサール会館	29(金)	聖金曜日(主の受難)
25(日)	四旬節第2主日	30(土)	聖土曜日(復活徹夜祭)
		31(日)	復活の主日

## 【編集後記】

2月号の編集後記を急に書くように言われましたが困っています。

「2月は何も載せるものがないなあ」と話していましたが、松坂さんや村上さんなど文章を寄せてくださって何とか2月号ができました。いつもどんな文章を載せようか困っていますがどんなことでも良いので原稿を持って来てくだされば助かります。よろしくお願いいたします。(M.O)